

評価委員会総合評価

研究課題名：機動観測項目における火山ガス成分観測の実効性調査

評価委員

委員長：隈健一

委員：齊藤和雄、大野木和敏、安田珠幾、小泉耕、尾瀬智昭、青梨和正、高薮出、
鈴木修、橋本徹夫、山里平、堤之智、岡部来

評価年月日：平成30年1月24日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、火山の噴火予測が社会的にも重視されている中、火山活動評価において重要性が指摘され、気象庁において今後現業として実施されることが期待される「火山ガス成分観測」を福岡管区気象台等で先駆的に実施し、その有効性を検証するものである。火山活動評価手法検討会やデータ検討会、共同研究成果研究会等により、観測結果の検証や評価も適切に行われることが期待される。

研究を進めつつ現場の地台職員のスキルを上げ、機動的観測の拡充を測れ、火山研究部の研究との、相乗効果を狙った研究である。研究所から適切な指導を行うことで、参加者のスキルアップ、知見の向上が期待できる。

現場として、実際に火山ガスを観測分析し、そのデータの有用性を確認し、火山活動を評価する、そして全体として火山ガス成分観測の実効性を実感として判断されること大切なことである。

検知管による測定精度があまり高くない点を考えると、期待される研究成果が十分には得られない可能性もあるが、その点を考慮しても、推進すべき課題と考えられる。

本研究の目的、目標、進め方は適切であり、研究の成果も十分に期待できると判断できる。今後は以下の点に留意しつつ、提案された研究計画を進めるべきである。

- ・サンプルの保管場所の確保等を考える必要がある。
- ・近い将来の火山機動観測における火山ガス成分比の観測の業務化に向けて全国の手本となる成果を期待する。
- ・実施にあたっては、職員の生命等の安全を第一に優先すると同時に、安全に係る技術・知見についても記録として残すなど、機動観測のより安全な実施に役立てることも考慮してもらいたい。
- ・実効性が確認されてまたは期待できて、火山ガス観測が重要な観測項目と考えられる場合には、その次の段階の長期研究観測や現業的な監視観測として、自動観測な

ど安全性にも配慮した観測手法の検討をお願いしたい。

- 対象火山が2つ、期間も2年弱であるので、顕著なイベント（活動）が無かった場合の取りまとめ方針についても、必要に応じ検討してもらいたい。
- 火山活動評価及び噴火活動予測の精度を高めることは重要であるが、一方で火山ガスによる直接の被害に関して、いつどこでどのようなガスが噴出する可能性があるかを明らかにすることに向けての調査も必要であるのではないか。